

汎用性の高い BLANCA-60SED

仙台駐在員 小野寺

変光星観測に、自作の 6cm, F5 の短焦点アクロマート屈折（右の写真）を使っていることは、以前紹介しました。軽量で便利なのですが、使用頻度が上がると、段々とその欠点が気になりました。それはドローチューブがフェルトによる摺動なので、微妙なフォーカスが難しいという点と、流石に短焦点アクロマートなので、30 倍以上での観測がちょっと厳しいという点です。それで、清水の舞台から飛び降りる心境で (?) BLANCA-60SED を購入してしまいました。

どうして観望に 60mm, F6 なんていう、小口径屈折なの？と思われるでしょう。この鏡筒は、どうも写真鏡筒としての利用が前提のようでした。ですので、観望に使うのは、ちょっと異端なのかも知れません。実は明るめの変光星によっては、双眼鏡では倍率がちょっと力不足、でも、15cm の反射とか 8.5cm のアポ屈折では、ちょっと倍率が高くなりすぎて視野が狭くなりすぎる（変光星の比較星が視野に入らなくなってしまう）という問題が起きる事が結構あるのです。色々と 6cm クラスの鏡筒を探して私の希望に叶ったのは、この BLANCA-60SED だったのです。直接カメラ三脚に取り付けられるし、F6 と使いやすい焦点距離なのも魅力でした。重さも 1.4kg と軽量で、伸縮式フードを縮めると全長わずか 23cm ほどになります。詳細は発売元の笠井トレーディングのページで確認して下さい。ドローチューブの引き出し量が 75mm ほどあるのですが、2inch や 31.7mm のプリズムで合焦するかどうか気になりました。実際に確認したところ、2inch の正立プリズムでも、31.7mm の正立プリズムでも合焦可能でしたが、後者だとドローチューブをほとんど引き出してしまい、アイピースによっては合焦しない不安も有るので、35mm の 2inch 延長チューブを併用して



Kolkit 改 6cm, F5 屈折
(UF18mm&正立プリズム)



フードを縮めた BLANCA-60SED



BLANCA-60SED
31.7mm 天頂ミラー with
2inch 35mm-extension tube &
7.2mm - 21.6mm zoom eyepiece

31.7mm の高反射天頂ミラー (AstroStreet 製) を付けて使用。現在、アイピースは SVBONY の 7.2mm-21.6mm ズームレンズを装着して、17 倍から 50 倍での観望を行っています。この状態で、実視界は約 2.5 度から 1.3 度程度になります。3 倍ズームなのに、実視界が 2 倍にしかならないのは、見かけ視界が低倍率側で狭いからですので、悪しからず。なお、ドローチューブの内面反射が大きいので、遮光紙を貼り筒状にしたクリヤファイルをドローチューブ内に挿入して有ります。この方法は、後で取り外しも出来るので、遮光紙を直接ドローチューブ内側に貼るよりもお勧めです。

さて肝心の見え味ですが、FPL-53 のアポクロマートという事で、星像はシャープです。試しに、3.5mm のナグラを付けて約 103 倍で木星を見てみたのですが、本体の縞模様も想像以上に見えますし、衛星はピンポイントでした。広告では「150 倍を超える過剰倍率でも、余裕でシャープネスを保つハイレベルな結像性を示します」と有りますが、103 倍での像からすると決してオーバーな記述ではなさそうです。103 倍でも、有効最高倍率 (mm 口径の 2 倍) の 120 倍にほぼ近いので、まあ通常使用での上限の倍率でしょう。60mm の F6 鏡筒にもかかわらず、100 倍で木星の縞模様が楽に見えるというのは、アポクロマートの対物レンズでは考えられないですね。

ところで、私はこの鏡筒を変光星観測に使っているのですが、この性能なら、ボランティア活動で行なっている観望会でも便利に使えるとわかりました。もちろん、普通の鏡筒でも使えるのは当たり前ですが、この鏡筒はカメラ三脚 (ビデオ雲台付きですが) でも使えるという点が便利なのです。一般の観望会だと、月とか惑星を見てもらう事が多いので、無理をして重い赤道儀や経緯台と口径の大きな鏡筒、例えば 8cm 以上の屈折鏡筒や 15cm 以上の反射鏡筒を運んで行っても、ある意味、必要が無い場合もあるのです。確かに惑星は大きな鏡筒の方が詳細を見る事が出来るのですが、木星面の縞模様も、初めて見る人には、見慣れた我々が見る事ができるほど詳細が見えない場合が多いのです。土星も、たとえカシニの空隙が見えなくても、リングが見えるだけで多くの人に喜んで貰える事を実感しています。それだったら、このたった口径 60mm, F6 の短焦点鏡筒でも十分にその能力を (?) 発揮してくれるでしょう。100 倍で使うとは言いませんが、5mm アイピースで 72 倍になるなら、月面のクレーターも、木星の模様や土星のリングも十分見えますから。

という訳で、この 60mm, F6 の鏡筒は、変光星観測だけでなくボランティア活動に持参する機材にもなりそうです。カメラ三脚とこの鏡筒だけなら、持参するのも楽ですし、一般の方に月や惑星を見て喜んで貰うのにも十分な性能を持っていると思います。旅行に持って行くにも、荷物にならず便利だと感じますし、日食遠征の時は機内持ち込みも可能 (航空会社によるかも?) でしょう。という訳で、観測用に購入した BLANCA-60SED ですが、意外にも汎用性が高い鏡筒でもある事がわかり、ちょっと喜んでます。